

日銀異次元緩和策の行方…出口はあるのか？

東短リサーチ社長
加藤 出

- *インフレにするだけでは成長出来ない
- *日銀が誘導する円安の功罪
- *日本はインフレもデフレもマイルド
- *軋みが出て来た2%インフレ政策
- *株と為替を活用するしかない日銀
- *FRBもマネタリーベース目標には懐疑的
- *日銀の国債購入で薄れた財政の危機感
- *FRBの出口戦略は短期金利から開始
- *米国経済にある成長の勢い
- *日銀の出口戦略には相当時間がかかる



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

ほぼ1年ぶりに加藤さんに来ていただきました。2カ月ほど前にお願ひしたわけでございますが、ちょうど日銀の異次元緩和が出た後で、たいへん皆さんもご興味がおありだと思ひます。日銀はかつてない、いろんな手だてをされて、マーケットもたいへんいいところ悪いところ、いろいろ出ているわけでございますが、今日のご専門の立場から、金融緩和の現在の状況と今後の見通しについて、いつもながらの明快なお話がいただけると思ひます。

それでは加藤さん、よろしくお願ひいたします。（拍手）

加藤 東短リサーチの加藤でございます。本日はよろしくお願ひいたします。

今お話がありましたように、日銀が10月の末に追加緩和策を決めて消費税引き上げを促した面もあったと思ひますが、結果的には解散総選挙と消費税先送りという流れになりました。この背景及び今の日銀の緩和策が先行きどうなっていくかというようなことを整理していききたいと思ひます。

インフレにするだけでは成長出来ない

最初に、今週発表されて大騒ぎになったGDPの件ですが、アベノミクスが始まろうとしていたときの2012年の第4四半期を100として、いくつかのGDPの項目のその後の変化を見てみますと、いちばん伸びているのが公的固定資本形成、つまり公共事業です。そのほか